

2016年4月12日

一般社団法人日本アルミニウム協会  
専務理事 村山 拓己 様

アサヒセイレン株式会社  
統括営業本部長  
専務取締役 山口 博司

アルミ-リチウム合金スクラップの件について

拝啓 陽春の候、協会役員各位には益々ご精栄のこととお慶び申し上げます。平素は業界発展の為に尽力賜わり、厚くお礼申し上げます。

さて 昨今航空機用展伸材として、添付資料の如く 2000 系及び 8000 系のリチウム入りアルミ合金が開発されており、既にその一部が合金新層として市場に出回っております。また弊社等の二次合金メーカーに、問屋筋から使用できないかという問い合わせも種々来ております。

ご承知の事とは存じますが、リチウムが微量でも入りますとアルミ二次合金は製品に成りません。またその為の脱リチウムは現状では非常に困難であり、ほぼ不可能であると言えます。

一旦二次合金用の原料として、溶解炉に入りますと、その 1 チャージ約 40~50t 分のアルミ溶湯が全て不良になるだけでなく、炉壁の付着で次チャージ分まで不良を出す結果と成ってしまいます。もちろんそのリチウム入り不良塊も、再使用は困難なままとなります。

リチウムは軽量素材として、航空機用の開発合金では脚光を浴びていますが、当然発生するスクラップは上述の如く、全く使用不可能であると言わざるを得ません。

素材の生産元であるアルミニウム製品各社殿でも、この点ご理解いただき、市中に出回ることなく、メーカーリターンしていただく等の処置を講じていただければ幸いです。

何卒ご配慮いただきます様、よろしくお願い申し上げます。

敬具

2016年4月4日

一般社団法人日本アルミニウム合金協会  
専務理事 安田 浩司 様

アサヒセイレン株式会社  
統括営業本部長  
専務取締役 山口 博司

合新 2000 系及び 6000 系スクラップへの  
ビスマス混入についてのご注意

拝啓 陽春の候、協会役員各位には益々ご精栄のこととお慶び申し上げます。平素は業界発展の為に尽力賜わり、厚くお礼申し上げます。

さて 掲題の件につきまして、6000系型材スクラップの中に下記写真の様な形状品でビスマス 0.56%・鉛 0.27%が含まれる (AA6262 相当品) が発見されました。

また、この度は合新スクラップを配合するとビスマスが検出され、調査したところ、ビスマス 0.5%前後が含有された AA2011 等の 2000 系スクラップが混入されていることが判明致しました。

ご承知の通り、ビスマス (Bi)・鉛 (Pb) の成分は、二次合金では品質不良の大きな原因となり一般的に使用しづらい為、なるべく購入しない様に努めておりますが、合金新屑等に混入されると判別する事は非常に困難です。

この点弊社では、仕入問屋殿にもご協力いただき、入荷した場合は、その品種を別途管理していただき、『ビスマス高』と明記していただければ、少量ずつ使用可能であることをお伝えしております。

素材の生産者であるアルミニウム協会殿にも、この主旨お伝えしておりますが、合金協会会員各社でも十分気をつけていただき、また各社仕入先殿への注意喚起も行って頂きます様、よろしくお願い致します。

敬具

